

沼津高架P Iプロジェクト



今後の進め方

【第7回P I委員会】

ステップ2におけるP I 委員会の評価視点

	実施計画での評価の視点 (ステップ2での評価の視点)	ステップ2の進捗状況 (自己評価)
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか (多様な利害関心を把握し、それらが対立構造にならないようにとりまとめられているか?)	・寄せられた意見を賛否などの対立的意見としてではなく、市民のニーズとして整理し、対立構造とならないように整理している。 (広報紙4号、意見集)
2	どのステップの検討をしているか明確にしながら進めているか (ステップ2の検討段階であることが明示され、誤解がないようにするための努力がなされているか?)	・広報紙、オープンハウス、車座談議等P I 活動時はステップ2の検討段階であることを常に掲示している。 (広報紙2号～5号)
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか (ステップ2での検討趣旨が明示され、それが理解されるための努力がなされているか?)	・意見まとめでは、ステップ2に関するニーズを中心に整理している。 (意見まとめ冊子、広報紙4号) ・車座談議や勉強会では、議論が目標から方法論に傾きがちであったが、ファシリテーターの進行のもとで目標に集中して議論することができている。 (車座談議(8回)、勉強会)
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか (目標は、単なる立場や要望などでなく、その理由となっているニーズ(利害・関心)を踏まえたうえで適切に設定されたか?)	・賛否や要望などの意見については、その理由となっているニーズ(利害関心)を読み解き、目標として整理したものをベースに議論している。 (広報紙5号、勉強会)
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか (どのようなステークホルダーが存在し、それらに対し多重多層のコミュニケーションが行われているか?)	・広報紙を通じた市民への情報提供や意見募集、オープンハウスでの直接的な対話のほか、多くの団体を対象とした車座談議や、各団体の推薦者で構成する勉強会の開催、事業者へのヒアリングなど多重多層のコミュニケーションに努めている。
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか (情報提供のため努力が十分になされているか、また、意見の把握では論点を把握する努力がなされているか? 提供した情報に偏りはなく、適切な情報が提供されたか?)	・広報紙は全市域対象に新聞折込配布、ホームページの充実、P I 委員会のインターネット中継、開催団体の意向による車座談議の公開、勉強会の公開など情報提供に努めている。 ・意見は利害関心を読み解きながら整理し、適切な情報の提供にも努めている。
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか (P I 委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか?)	・オープンハウスの服装、車座談議の記録方法、事業者ヒアリング対象など助言を踏まえ対応している。
8	その他 (勉強会の運営において、意図的な議論の打ち切りや、遅延行為はなかったかなど、適切な議論や時間管理がなされているか?)	・勉強会の立ち上げが遅れ、当初の予定よりステップ2が大幅に延びていることから、勉強会での議論の効率を高めてスピードアップしていく。

スケジュール

